



〒892-0841 鹿児島市照国町13-42 カトリック鹿児島教区 電話099(26)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部



教区財政の正常化を目指す

教区経済問題評議会

五月六日(日)午後二時から教区本部で経済問題評議会(旧教区財務委員会)が開かれ、特に危機的状況にある教区会計正常化について話し合われた。会議では、同委員会が中心になって教区財政正常化に取り組むことが申し合わされたほか、現在の状況を「教区費緊急募金」で乗り切ることが決められた。

教区費緊急募金にご理解を!

議事は小川神父(総代理)の司会で進められた。決算の審議では「献金収入額と人件費支出額がほぼ等しいのは教区の宣教、司牧のために使うお金がない

ということではないか」「教区の赤字の補てんに他の会計から繰り入れるのは正しくないことだ」などの意見が出された。また予算審議では、信徒

財務委員から「教区費緊急募金」の提案がなされ、その案文の検討がなされた。審議の結果、以下の文書で、教区民に協力を願うことになった。

「教区財政緊急募金」の提案理由

二〇〇七年度教区会計収支予算書の献金収入の欄に今年度から「教区財政緊急募金」として六百万円を計上しました。その理由は以下の通りです。

小平神父の墓参りに

北九州市 古賀豊子さん

ゴールデンウィーク中の五月四日(金)午後、教区本部を訪れて下さったのは古賀豊子さんと息子さんたち。九州からわざわざの来鹿であった。

ご家族で鹿児島を訪ねて下さったのは、一昨年八月に天に召された小平卓保神父の墓参りのため。すでに亡くなった豊子さんのご主人・喬さんと親交のあった小平神父の墓前で祈りをとの思いに駆られてのことらしい。

喬さんと小平神父の出会い、神父のフランス留学(一九六一年〜一九六五年)の頃知り合ったパリ外国宣教会の



バイヨ神父を通して。バイヨ神父が古賀さんたちの所属する八幡東区の教会を

担当していたためできた縁である。古賀さん一家は、唐湊墓地近くの花屋で生花を購入し、カトリック司祭墓地で祈りをささげ、神父の安息と喬さんも天に召されたことを報告して、鹿児島を後にされた。

へ納めるようになっていきます。(鹿児島教区財政の正常化計画書)一九七七年五月/二〇〇〇年七月一部修正)

II しかし、上記の計画発効以来、教区会計では維持費収入が予算額に達しな

〇六年教勢まとめると 信徒数九三七〇人

二〇〇六年十二月三十一日付の教区教勢がまとまった。それによると鹿児島教区の信徒総数は、昨年より八十五人増加し、九三七〇人。信徒総数から居所不明者を除いた信徒実数も九〇四六人と、九〇〇〇人代を保った。

洗礼者数は、二〇〇〇年の一五四人を最高に、概ね二二〇〇〜一三〇〇人と変わらない。なのに信徒数が増えているのは、亡くなった方が昨年より少なかったことと、教区外への転出者が少なかったことが考えられる。

また、教区内転入「その他」の増加もその要因。これは主任司祭たちによって名簿から落ちていた信者が多数発見されたもの。信徒たちには、転入、転出時の信徒の務め(主任司祭への報告)の徹底が望まれる。【二面に教勢表を掲載】

いたため教区司祭地区会計から繰り入れてきました(昨年度四百万円)。しかし、これからは地区会計から繰り入れができなくなりま

III その主な理由として ① 地区費の次年度繰越金を実質約三百万円しかないこと ② ベトナム人司祭四人の鹿児島教区加入が挙げられます。

IV そこで、どうしても今、教区司祭地区会計からの繰り入れなしで地区会計が自立できるように対処す

する必要があります。 V ここで提案する「教区財政緊急募金」は一七二三人(二〇〇五年度の教会維持費納入者に毎月、五百円(一口)を特別に納めていただきたいというものです。

VI 平成十九年度の募金目標額は六百万円を計上していますが、皆様のご理解とご協力があれば目標額達成はそう困難ではないと思います。 VII この募金に「緊急」と銘打ったのは、各小教

区で、在籍信者数に対しての維持費納入者の割合が倍増すれば自ずと財政の正常化がなされるはずなのですが、現実はそのようではないのです。従って、正常でない状態を正常に戻す、という意味で「緊急」という言葉を使いました。

また、今後経済問題評議会委員会は、補正予算や決算、予算作成時に随時召集され、積極的に教区財政の正常化のために協力することを申し合わせた。

第20回鹿児島きぼうの電話相談員養成講座

期	日	電	講 題	講 師
1	6	金	鹿児島県立総合教育センター	竹内 博 (鹿児島女子大学)
2	6	金	鹿児島県立総合教育センター	大坪 敏彦 (鹿児島大学)
3	7	土	鹿児島県立総合教育センター	大坪 敏彦 (鹿児島大学)
4	7	土	鹿児島県立総合教育センター	石倉 昌彦 (鹿児島大学)
5	7	土	鹿児島県立総合教育センター	石倉 昌彦 (鹿児島大学)
6	7	土	アムステルダム	山口 洋 (山口県立)
7	7	土	アムステルダム	山口 洋 (山口県立)
8	8	日	鹿児島県立総合教育センター	中津 敏一 (鹿児島大学)
9	8	日	鹿児島県立総合教育センター	中津 敏一 (鹿児島大学)
10	8	日	鹿児島県立総合教育センター	大坪 敏彦 (鹿児島大学)
11	8	日	鹿児島県立総合教育センター	大坪 敏彦 (鹿児島大学)
12	8	日	鹿児島県立総合教育センター	大坪 敏彦 (鹿児島大学)
13	8	日	鹿児島県立総合教育センター	大坪 敏彦 (鹿児島大学)
14	8	日	一泊研修 鹿児島県立総合教育センター (鹿児島市内)	高平 博子 (鹿児島女子大学)
15	8	日	鹿児島県立総合教育センター	大坪 敏彦 (鹿児島大学)
16	8	日	鹿児島県立総合教育センター	大坪 敏彦 (鹿児島大学)
17	8	日	鹿児島県立総合教育センター	竹内 博 (鹿児島女子大学)
18	8	日	鹿児島県立総合教育センター	竹内 博 (鹿児島女子大学)
19	8	日	鹿児島県立総合教育センター	竹内 博 (鹿児島女子大学)
20	8	日	鹿児島県立総合教育センター	竹内 博 (鹿児島女子大学)
21	8	日	鹿児島県立総合教育センター	竹内 博 (鹿児島女子大学)
22	8	日	鹿児島県立総合教育センター	竹内 博 (鹿児島女子大学)
23	8	日	鹿児島県立総合教育センター	竹内 博 (鹿児島女子大学)
24	8	日	鹿児島県立総合教育センター	竹内 博 (鹿児島女子大学)
25	8	日	鹿児島県立総合教育センター	竹内 博 (鹿児島女子大学)
26	8	日	鹿児島県立総合教育センター	竹内 博 (鹿児島女子大学)
27	8	日	鹿児島県立総合教育センター	竹内 博 (鹿児島女子大学)
28	8	日	鹿児島県立総合教育センター	竹内 博 (鹿児島女子大学)
29	8	日	鹿児島県立総合教育センター	竹内 博 (鹿児島女子大学)
30	8	日	鹿児島県立総合教育センター	竹内 博 (鹿児島女子大学)

養成講座を開講

二十年目を迎える きぼうの電話

今年十一月に開局二十年の節目を迎える「鹿児島きぼうの電話」では、六月二十二日(金)から電話を受ける相談員を養成する講座を開講する。講座は十九回開かれ、二十歳以上ののなら

司祭の消息

▼池田紀行神父(マリア会・長崎教区小ヶ倉教会)は、サバティカルを利用して、一年間屋久島教会を担当。五月十五日現地へ赴いた。



YET

雨の日には、よく四十数年前のことを思い出します。まだ幼稚園に通っていた頃だったと思う。どこかの店の軒先で雨をしのぎながら、仕事帰りの母を待っている、そんな光景だ▼「鍵っ子」と呼ばれ、タコ糸に通された鍵を「なぐさぬように」と首からかけていた。誰もいない六畳一間の我が家に一人解錠して入る、ちよっとお兄さんになった気分だった▼お風呂は大家さんにもう。銭湯に行けるのは週に二、三回。テレビも近所さん宅で、でも正座させられるのが嫌だった。まだ皆が貧しい時代だったと思う。だからちよっとしたものが欲しかった。ちよっとしたことが喜びともなった▼雨の日に、なぜだか覚えているのは雨の日に、店の軒先で母を待っていたのは、軒を借りていた和菓子屋で売られている小さな万頭をせがむため。父には内緒で月に一度、赤と白と緑の、一個数円の万頭を買ってもらえる母の給料日だったから▼子どもには嬉しい、懐かしい思い出、でも母にはちよっとほろ苦い、複雑なもののように。六歳下の妹は「そんな思い出はない」と羨む。手に入れたものは多いはずなのに、そんな思い出が欲しいという▼雨の日に、幼い子にはちよっとした旅にもなるほどのお出迎で手にした万頭は、母を世界で一番お金持ちと思わせてくれる僕にとっての希望の「それでもグッズ」だった。

II 新風 II

ベトナムからの四人の志願者

この度、聖血礼拝修道女会聖ヨゼフ修道院(霧島市溝辺町)にベトナムから四人の志願者が入ることになった。

高齢化と召命不足に悩む院長様は以前「ベトナムは召命が多いと聞いておりますが、何とか来てもらえないでしょうか」と、前教区長永司教様に相談した。永司教様は当時、郡山

神父様と同居していたティエン神学生に相談してみた。ティエン神学生は修道会の会憲をベトナム語に訳し、それと修道会の紹介パンフレットを持ってベトナムへ帰国。叙階式後の一か月の休暇を使って、候補者探しに奔走した。

昨年九月中旬、強力なベトナムの仲介者から候補者が六人見つかったと連絡を受けた。そこで十二月上旬、院長様以下二人のシスターを伴ってベトナムへ。当日決められた時間集まった五人を面接し、最終的に四人が決定した。

二日後、ニヤチャン教区内にある四人の実家を訪問し、ティエン神父様の案内と通訳で、家族とじっくり対面。本人の意志と、家族の同意を確認した。「修道院では一日に何回祈りますか?」「召し出しにこたえるのは嬉しいけど、遠い国に行ってしまう

のは寂しい。悲喜こもごもの会見だった。

その後四人はホーチミン市にある日本語学校で三か月の特訓コースへ。そしてついに、五月七日、彼女たちを直接面接したニヤチャン大司教区のヨゼフ・ミン協働司教様から入国査証取得に必須の派遣状が届いた。

修道院の存続を強く願うシスター方の願いが叶い、四人の召命を頂いた。後はこの召命が実を結ぶように皆さんの祈りをお願いしたい。(H・N)

司教執務室便り

「それでも」考(2)

今回も引き続き『それでも』について書いてみたい。

考えてみると、信者であるうがなろうが、これまででの人生での色々な場面で、「しようがないか」「じゃあもう一度」「イヤきつと分かってくれる」「やるしかない」などなど、強弱の差はあっても、それぞれの『それでも』の体験があったはず。そして、「あの時諦めなくて良かった」という思いも。実は、そうした体験で織りなされているのがそれぞれの人生だと言える。

そういう意味では、『それでも』は新しいことではない。しかし、信者にとっての『それでも』の

原点が十字架上のイエスさまにあるという点では『新しい言葉』と言える。

あの不条理の死を甘受されただけでなく、槍を向ける人々の赦しを願う祈りを御父に捧げられたところ、究極の『それでも』があるからだ。そのとき、イエスさまはすでに世に勝たれた。世とは、この世の権力というだけでなく、理屈や常識の世界のこと。別の言い方をすれば、何かというと、すぐに自己弁護したり正当化したりする自分自身の有りようのこと。パウロ的に言えば「古い人」(エフェソ4・22)。

そういう古い自分から、「新しい人」(エフェソ4・24)になかなか脱

皮できない自分の現実にもかかわらず『それでも』と口にするので力が湧くから不思議だ。それは、自分もあの祈りの列に加えて貫ついているというか、少なくとも、イエスさまと違う方を向いていないという自負があるからかも知れない。しかし、何よりも、それはイエスさまのあの十字架での赦しの祈りの実りであることに間違いはない。意に沿わない現実直面するたびに『それでも』を呪文のように繰り返しながら十字架の神秘を体現する日々であることを祈りつつ...



鹿兒島教区教勢

2006年12月31日現在

小教区	信徒数		居滞不明	洗礼		転入			転出			死亡	求道者
	総数	実数		子供	大人	教区内	教区外	その他	教区内	教区外	その他		
ザビエル	933	887	46	0	15	7	8	2	3	3	0	3	15
玉里	272	272	0	0	2	0	1	0	0	1	0	2	0
吉野	190	180	10	0	1	0	4	0	0	0	0	2	1
鶴池	562	513	49	2	6	1	2	4	2	11	0	10	2
谷山	811	754	57	3	9	1	4	1	2	2	0	3	9
指宿	87	87	0	0	0	2	1	0	0	0	0	1	2
素原	165	158	7	0	0	6	2	0	2	3	4	0	1
始良	265	256	9	4	7	5	3	0	3	0	0	2	1
溝辺	19	18	1	0	3	4	0	2	0	0	0	0	2
種子島	98	98	0	1	0	4	1	0	0	0	0	1	2
加世田	135	127	8	0	0	0	1	5	0	0	14	2	0
計	3537	3350	187	10	43	30	27	14	12	20	18	26	35
国分	159	155	4	2	3	0	3	0	0	0	0	2	0
豊水	26	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鹿屋	254	233	21	3	2	0	1	0	6	0	0	1	3
志布志	85	85	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0
計	524	499	25	6	5	3	4	0	6	0	0	3	3
出水	183	183	0	0	1	0	0	0	2	3	0	2	6
阿久根	57	57	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3	3
大口	160	160	0	2	0	0	2	0	1	0	0	3	3
川内	294	281	3	2	1	3	0	0	3	1	0	0	3
入来	86	86	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0
計	780	777	3	4	5	3	2	0	9	5	0	8	15
聖心	880	868	12	4	6	3	1	0	1	0	0	14	5
古田町	780	750	30	5	8	5	5	0	2	3	0	16	1
大熊	610	605	5	4	4	9	0	0	9	0	0	5	0
小宿	345	345	0	0	1	1	1	0	1	1	0	0	2
古仁屋	193	187	6	1	2	1	0	0	0	0	0	6	4
瀬留	415	415	0	0	3	2	0	0	1	0	0	4	1
大笠利	644	598	46	7	3	0	0	0	2	1	0	9	2
計	3867	3768	99	21	27	21	7	0	16	5	0	54	15
母間	482	482	0	3	5	0	0	0	0	0	0	9	4
和泊	180	170	10	2	0	0	0	39	0	0	0	4	0
計	662	652	10	5	5	0	0	39	0	0	0	13	4
合計	9370	9046	324	46	85	57	40	53	43	30	18	104	72
				131		150			91				

+KABAYAN SEKSIYON+

"Ang kababayan sa pagitan ng Tradisyon at ng Banal na Kasulatan"

Ang panauampalataya natin ay may isang pangkaraniwang pinagmulan. Ito ang Banal na Tradisyon at Banal na Kasulatan. Pagkakaiba't pagkakaiba ay nagpapahayag ang bawat isa. Dahil para sa dalawa ay isa lang ang pinanggalingan ng kapangyarihan na dumadaloy sa kanila at lumalabas na magkasama para mabuong isang bagay at sa ka gumagalaw para sa isang layunin.

Bawat isa sa kanila ay presents at nanumunga sa Simbahan ng mga misteryo ni Kristo, na nangakong palaging mananatiliug kasama "banggang sa katapusan ng panahon

Ang dalawang uri ng paghahati. Ang Banal na Kasulatan at Banal na Tradisyon. Ano ang Banal na Kasulatan? Ang "Ang Banal na Kasulatan" ay wika o Salita ng Diyos na inilagay sa pagkasulat sa ilalim ug hinanga ng Espiritu Santo. Kung wala ang patnubay ng Espiritu Santo, ay hindi maiusulat ang wika o salita ng Diyos.

Ano ang tinatawag na "Banal na Tradisyon"? Ang "Banal na Tradisyon" ay inilapat ang kabuuan ng Salita ug Diyos na kung saan ay ipinagkatiwala sa mga alagad ni Kristo at ng Espiritu Santo. Ipinasa o inilapat ito sa mga kahalili ng mga alagad, na sa liwa nag ng Espiritu nang katotohanan na kanilang mata par na pangalagaan, mapaliwanag at msikalat sa ibang lugar sa pamamagitan ng kanilang pamamahayag

Bilang bunga, ang Simbahan na kung saan ang paglipat at pagpaliwanag ng kapahayagan ay ipinagkatiwala, ay hindi lang tumatanggap ng katiyakan tungkol sa kabat ng katotohanan na ipinahayag na hindi lang galing sa Banal na Kasulatan. Ang bawat isa, ang Kasulatan at Tradisyon ay kanilang sanggapan at kilalanin ng parehong damdamin ng pagdebaayon at paggalang.

Kaya mga kababayan ang turo ug Simbahan ay hindi lang isa kundi dalawa. Ang Banal na kasulatan at Banal na Tradisyon na nagpapahayag sa Diyos.

使命感を持って働くために 聖心教会で「信徒の奉仕者」選任式

五月六日(日)、聖心教会(小隈憲士神父)では二番ミサの中で十六人の信徒の奉仕者の選任式を行った。郡山司教から任命書を手渡された奉仕者たちは「これからは使命感を持つ

て奉仕できる」と喜び合った。奉仕の内訳は以下の通り。
① 病者及び在宅高齢者への聖体奉仕者
② 司祭不在時の集会・祭壇の奉仕者



司教から任命書を手渡される信徒の奉仕者

- ③ 典礼祭儀の奉仕者(専任オルガニスト、聖歌指導、聖歌を選ぶ奉仕者、朗読奉仕、詩篇唱者、侍者の指導養成者)
 - ④ 教会学校教師の養成奉仕者
 - ⑤ 名瀬カトリックセンター管理運営の奉仕者
- 今回選任される

十六人は小隈神父が主宰するキリスト教基礎講座第一期(十二講、第二期(八講)の計二十講座を受講した二十四人の中から選ばれた人たち。任期は三年だが、主任司祭と相談して再任で

きるようになっていく。小隈神父はこの度の信徒の奉仕者選任について「信徒たちはそれぞれ素晴らしいタレントを持っている。今回の選任は基礎講座の受講を条件にした。そうであれば選任を主任司祭の恣意的な判断だと誤解する信徒たちも出てくることを考えてのこと」と語っている。

宣教奉仕者十五人を選任

今年のカトリック北薩大会

恒例の北薩カトリック大会が五月二十日(日)大口明光学園で開かれた。三十年以上も続けられてきたこの集いの今年のテーマは「北薩の地でキリストのものがたりを告げ知らせよう」。ミサの中ではそのテーマへ取り組む姿を証明

するようには宣教奉仕者の選任式が行われた。この日郡山司教から選任された奉仕者たちは、一月から四月まで月一回開かれた永山幸弘神父の講座を修了した人たちの中の十五人。昼食後は大口明光学園吹奏楽部の演奏でリラックスした後、郡山司教の講話を聞いた。

創立50年を感謝する レデンプトール宣教修道女会



レデンプトール宣教修道女会が創立五十年を迎え、その記念式典が五月三日(木)谷山教会で開かれた。同会は一九五七年にレデンプトール男子修道会ミュンヘン管区によってドイツのガルズに誕生した。日本での活動は一九六五年にドイツから三人の会員が鹿児島に派遣されたから。鹿児島では女子寮の経営、幼稚園教諭、看護師、カテキスタ、

門田 明氏の

鹿児島とキリスト教

ザビエル鹿児島を去り都へ

これまで、鹿児島に滞在したザビエルについて話してきた。一五四九年八月十五日鹿児島に来た彼は、二年近くこの地にとどまったが、一五五一年にここを去り、京に向かった。かねてからミヤコに行きたいという希望を書簡でも語っている。

「季節風が吹かないために、日本の国王や大諸侯たちがいるミヤコへ行くことができませぬ。今から五カ月後にはミヤコへ行くための季節風が吹きはじまりますので、主なる神のお助けによって、順風に乗れ、旅路を歩みましょう。」(一五四九

年十一月五日、ダ・シルヴァ宛)

ザビエルが得ていた情報によれば、当時京都には九万六千戸の家があり、リスボンより大きい町だとマラッカに書き送っている。ミヤコに向かったザビエルは、まず平戸に行く。「そこでは領主(松浦隆信)が私たちをたいそう歓迎してくれましたので、そこに(二カ月間)滞在して一〇〇人ほどの人たちが信者にしました。」(一五五二年一月二十九日、イエズス会宛)

ザビエルはさらに足を延ばす。「フアン・フェルナンデス(鹿児島で信者になったベルナルド)と私は、日本(で最強)の領主(大内義隆)がいる山口と呼ばれる地へ行きました。この町には一万人以上の人が住み、家はすべて木造です。」ザビエルは幾日間も街頭に立ち、

毎日二度話し、大勢の人が説教を聞きに集まったという。もちろん彼の話を馬鹿にして反対する者もあり、結果として信者になった者は少数であった。こうして「活動の成果が挙げられないのを見て、私たちはミヤコと呼ばれる全日本の首都へ行く決心をしました。」(平戸から京都へは)二カ月間の旅程でした。」(同上)ということになった。

随分危険な旅をしてミヤコに到着し、ここに十一日間滞在したという。天皇に会い、全国宣教の許可を受けるつもりであったが、戦乱でミヤコは荒れ果て、実現の可能性は皆無と分かった。こうしてザビエルはもう一度山口に引き返し、この地で宣教に励むこととなった。(玉里教会信徒・ザビエル上陸顕彰会会長)

「宣教家族派遣のミサ」のご案内

日時：6月26日(火)午前11時
場所：鹿児島カテドラル・ザビエル教会
※郡山司教と司祭団による共同司式ミサの中でスペインからの宣教家族の派遣式が行われます。多数ご参加ください。



▼女性信徒の会

鹿児島カトリック女性信徒の会は、五月二日(水)ザビエル教会で今年度の総会を開き、郡山司教の講話で自分らしく輝く生き方を学んだ。

▼典礼研修会

四月二十九日(日)ザビエル教会で「典礼研修会」があった。テーマは「ミサと日常生活のかかわりから典礼を考える」。講師の桃菌淳一郎助祭は「私たちの生活はミサの奉獻に向いている。だから典礼文の文言をもっと味わい、そして口にしたことに責任をとる生活をするよう」七十人あまりの出席者たちを励ました。

スピリチュアルケア 一日研修会(ご案内)

「本物のホスピタル・本物のホスピス」
講師：W・キップス神父 日時：6月17日(日)9時
30分 場所：県民交流センター 受講料：五千円

6月

今月の暦

- 3日(日) 三位一体の主日
- ▼ホルヘ神父叙階記念日(二〇〇三年)
- 10日(日) キリストの聖体
- 15日(金) イエスのみ心
- 17日(日) 年間第十一主日
- 18日(月) 司教総会・22日まで
- 19日(火) エルネスト・カスグレン神父命日(フランス) スコ会・一九七九年)
- 24日(日) 洗礼者聖ヨハネの誕生(聖ペトロ使徒座への 献金)

聖ペトロ使徒座への献金
教皇は毎年、世界各地を訪問します。そして、人々の苦しみや悩みを聞き、優しい笑顔で力づけ、数々の援助を与えます。キリストの代理人、教会の最高牧者である教皇は、祈りと具体的な援助を通して全世界の人々にいつも心を注いでいるのです。この教皇に心を合わせて、わたしたちも世界中の苦しんでいる人々のために祈りと献金をささげます。教皇のこうした活動のために充てられる聖ペトロ使徒座への献金は、八世紀ごろイギリスで始まった、大人も子どももいっしょに小さな金である「ペニー」を毎年教皇に献金する運動がもとになって世界中に広まったものです。

▼小川靖忠神父霊名(洗礼者聖ヨハネ)

25日(月) 教区司祭会・教区本部・16時

▼レデンプトール会例会

26日(火) 山口重義神父叙階記念日(一九七二年)

▼宣教家族派遣のミサ・カテドラル・11時

29日(金) 聖ペトロ 聖パウロ使徒

▼霊名がペトロの司祭(瀧 憲志神父、美島春雄神父、竹山 昭神父、永山幸弘神父)

26日(火) 定例司祭集会・教区本部・10時

▼霊名がパウロの司祭(司祭) 糸永真一司教、有馬信茂神父、小隈憲士神父

25日(月) 教区司祭会・教区本部・16時

第三回アルファコースのご案内

「ビデオを観ながら 神の愛を学びます。昼食できます」

開始 6月21日(木)毎週木曜日10時~13時(全15回・8月休み)

申込み〆切 6月17日(日)

・どなたでも受講できます。
・新信者、求道者歓迎。お待ちしております。
ザビエル教会(☎九九九-1221-3408)

五月二十日、カトリック北薩大会において宣教奉仕者選任式が行われ、十五人の宣教奉仕者が誕生しました。既に昨年七月、鹿兒島地区の七小教区から二十二人の宣教奉仕者が選任されています。これを機に教区報編集部から執筆の依頼がありました。宣教奉仕者養成は教区信仰養成委員会の責任下にあります。実際に担当した者として、敢えて書かせて頂きました。

鹿兒島教区の宣教奉仕者(1)

溝辺教会主任司祭 永山幸弘

特宣教奉仕者制度の導入

二〇〇五年九月、前教区長糸永真一司教は鹿兒島教区の「教区昇格五十周年」にあたって終身助祭制度の導入と信徒奉仕者(宣教奉仕者)と祭壇奉仕者(養成)を正式に開始しました(終身助祭および信徒奉仕者の養成—司教区の新しい船出のために—「以後五十周年文書と呼ぶ」鹿兒島カトリック教区報二〇〇五年九月号に掲載)。司教は新たな五十年を踏み出すために「キリストこそわたしたちの希望」(「テモテ・」)のみことばを掲げ、教区が希望に向けて船出するため重要な方策として両制度を導入しました。同月十九日の教区昇格五十周年記念ミサで二人の終身助祭が叙階され、次いで宣教奉仕者の養成コースが十月に本土と奄美地区で開始されることと公表されました。

宣教奉仕者の任務

「朗読奉仕者(宣教奉仕者)は、神のことばを告げる者という別名で呼ばれているように、教会の宣教活動に協力する任務を持ち、そのために神の民の中で特別な役割を与えられ、神のことばにもとづく信仰の奉仕者に任じられるのです。すなわちあなた(がた)は、教会から福音宣教の務めを託されている司牧者の指導監督のもとに、典礼集会で神のことばを朗読し、子どもや大人に要理を教え、秘跡にあずかる準備をさせ、キリストの教えを知らない人々に、救いの神秘を伝えます」

宣教奉仕者は典礼集会で神のことばを朗読します。また司祭不在のとき、典礼法規に従ってみことばの祭儀を司式し、聖体を拝領させることも可能です。宣教奉仕者の典礼集会での朗読は子どもと大人に要理教育を行い、秘跡の準備をさせ、求道者を洗礼に導くお手伝いをするという大きな広がりをもった役割を示すものです。教会の宣教司牧活動は秘跡、特に聖体の秘跡に向かっているからです。(用)教会の基礎は聖書と聖伝そして教導職です(啓示憲章10参照)。従って教会の教えを学び、深め、味わう信者が増えていくことが教会の健全な発展の土台となります。その役割の一端を担う者が宣教奉仕者です。信仰はその内容の理解を前提とします。「わたしたちは、わたしたちに対しての神の愛を知り、また信じています」(一ヨハネ4・16)。信仰は愛を生み、自分を全面的に奉獻することに向かわせます。(火)鹿兒島における宣教奉仕者制度の導入に関して糸永司教は五十周年文書の中でこう述べています。「世俗化が進み、個人主義が広がり、価値観が多様化する現代においては、奉仕者の質と数はいつにもまして重要になりました」と。また主日のミサ参加率の低下、青少年の教会離れ、司祭召命の減少等を克服する有効な方法には教えを自分のものとし、聖霊に支えられてそれを実際に生きることが求められています。(水)宣教奉仕者の任務は司祭の肩代わりをすることでなく、むしろ司祭の手が届かない分野で、信徒独自のあり方で日常的に教え、分かち合いながら共同体の隅々にまで信仰の理解が浸透していくための奉仕です。従って宣教奉仕者はそれぞれのレベルと分野に応じて、また独自のカリスマをもつて信仰を伝えるのです。対象者は多様ですから。(木)五十周年文書は宣教奉仕者に選任するリーダーについてこう述べています。「教区では、希望者を宣教奉仕者に選任するほか、指導的立場にあるすべての皆さん、すなわち、班長、教会学校の信徒教師、幼稚園や学校の信徒教師、信徒の聖体奉仕者や種々の教会委員、レジオマリエ会員や各種信徒リーダーの皆さんに、少し勉強して頂いて、宣教奉仕者に任命したいと考えています」と。信徒のリーダーが司祭と一体になつて宣教活動を行えば、間違いなく教会は成長します。

宣教奉仕者は別名「神のことばを告げる者」「神のことにとづく信仰の奉仕者」と呼ばれています。



若い力

有意義だった加世田での分かち合い

昨年、一月一回、教区本部で司教様と分かち合いをしている青年だが、今回、加世田教会の皆さんと分かち合う機会に恵まれた。加世田教会では主日ミサにあずり、その後、一緒に分かち合いを行った。今まで青年だけで分かち合ってきたが、今回は子供達から年配の方まで幅広い年齢層の集いとなった。集いでは信仰にまつわる昔の思い出話、信徒の方々の貴重なお話や意見にも触れることができた。「青年と信者の心がで会話しているな」と進行係の私はそう強く感じていた。この分かち合いで世代を超えて信徒同士が信仰でつながっているという喜びに改めて気付かされ、幸せな気分であつた。

と題して鹿兒島、長崎、宮崎の若者約三十人が交流した。薩摩の殉教者レオ税所七右衛門を含め日本全国で計一八八人の殉教者の列福が決まった。教区の青年たちは「このイベントに向けて、私たちはこのイベントをきっかけに、九州や全国の青年たちとも繋がりを、何か一緒にできた」と考えている。実際、列福式の会場となる長崎では、列福式に併せてユースフェスティバルの開催も検討されている。今後、このような機会を作り、老若男女で分かち合えたらいいなと思う。泉神父様はじめ加世田の皆さんに感謝。(ザビエル・小郷亜紀子)

列福を機に青年の絆を深めたい
四月二十八、二十九日、川内教会で『飲ミーティング』

と題して鹿兒島、長崎、宮崎の若者約三十人が交流した。薩摩の殉教者レオ税所七右衛門を含め日本全国で計一八八人の殉教者の列福が決まった。教区の青年たちは「このイベントに向けて、私たちはこのイベントをきっかけに、九州や全国の青年たちとも繋がりを、何か一緒にできた」と考えている。実際、列福式の会場となる長崎では、列福式に併せてユースフェスティバルの開催も検討されている。今後、このような機会を作り、老若男女で分かち合えたらいいなと思う。泉神父様はじめ加世田の皆さんに感謝。(ザビエル・小郷亜紀子)

列福を機に青年の絆を深めたい
四月二十八、二十九日、川内教会で『飲ミーティング』

と題して鹿兒島、長崎、宮崎の若者約三十人が交流した。薩摩の殉教者レオ税所七右衛門を含め日本全国で計一八八人の殉教者の列福が決まった。教区の青年たちは「このイベントに向けて、私たちはこのイベントをきっかけに、九州や全国の青年たちとも繋がりを、何か一緒にできた」と考えている。実際、列福式の会場となる長崎では、列福式に併せてユースフェスティバルの開催も検討されている。今後、このような機会を作り、老若男女で分かち合えたらいいなと思う。泉神父様はじめ加世田の皆さんに感謝。(ザビエル・小郷亜紀子)

文芸

俳句 (思川俳句会作品)

田平新太郎選 純心学園 山頭信子
遊ぶ児の花びら集めまた吹かれ
復活祭ザビエル聖堂蹴入れ儀
(評) 「花びら集めまた吹かれ」は児の動きが美しく表白されている。

出水 遠竹睦郎
時鳥鳴きて飛びゆく初夏の日
(評) 五万石町の歴史を感じさせる佳作

鹿兒島 徳永ノブ子
高原の燃ゆる如きの山つゞじ
純心学園 川上 和
茶の湯たつ八十八夜薩摩香る
鹿兒島 春山マリ子
鯉のぼり空に向けて一呼吸
出水 沖 弘子
老女住む庭に離れず夏の蝶
阿久根 中津濱フサエ
新緑の森にさしこむうす日かな

短歌 (思川短歌会作品)

田平新太郎選 古仁屋 豊島忠司
鯉のぼりほどよくおよぐ五月晴
黄砂舞う桜島の北岳居丈高
選者詠
ひらひらとすさまの風にカーテンがゆれる一日を妻と暮れたり
鹿兒島 前田儀子
甲突川ほとりの桜しるじろとうしほのごとくいちどきに満つ
阿久根 眞清水 藍
恵みなる長寿の日々を愛に生き今日招かれぬ「永遠の安息」へ(百歳の友を悼む)
鹿兒島 春山マリ子
美しい自然が包む我が胸の小鳥も花も皆んな幸あれ
阿久根 中津濱フサエ
晴れやかな五月の空におよぐ鯉子の六十年をたどりてあおぐ
奄美 林 明子
夕やけでいつぱいのへやラジオからホテルカリアフォルニア流れています
(評) 口語短歌の美しさが流れ出てよい。

純心学園 川上 和
鮮やかに薩摩ボタンよみがえる教え子描く花鳥風月に
月に」で素直な詩が生まれている。
大口 森 博伸
御言葉にこころたたくむ想いして捨て得ぬ石を秘めし哀しき
出水 遠竹睦郎
天皇家の写真飾れるデパートのサテライト・スタジオに歌流れゆく
選者詠
碑の歌口遊み師を徳々鶴愛しまん荒崎あり